

非核の政府を 求める大阪の会

ニュース

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)
 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033
 URL・http://hikaku-osaka.jp/
 E-mail・hikakuosaka@hotmail.com
 hikaku-osaka1986@nifty.com

第179号 2017年5月1日

世界は核兵器廃絶へ画期的な一歩をふみだす

日本政府は参加拒否、今こそ非核の政府を



▲2015年 NPT 再検討会議 NY 行動にて

永年にわたる私たちの運動は、ついに核兵器を違法化するという画期的な一歩をつくりだしました。

核兵器禁止条約をめぐる多国間交渉会議(第一期)が三月二十七日から五日間にわたって国連で行われ、一五カ国以上の政府代表や国際機関が出席、更には被爆者、日本原水協、日本共産党など内外から二〇〇名以上の市民社会の代表も正式参加が認められ演説するな

どして成功に貢献しました。会議の内容は、条約の原則と前文、中核的禁止事項から市民社会の貢献、条約の発効要件など多岐にわたるものの白熱した議論で条約制定への道筋が見えてきたと評価されています。

今回の会議開催の背景にあるのは、二〇〇〇年、二〇一〇年のNPT再検討会議で合意された「核兵器のない世界の達成に全力をあげる」という誓約を履行せず、NPT

第六条の「核軍縮義務」を怠る核保有国に対する非核保有国の不満であり、多国間交渉の行き詰まりを打開するためです。さらに、従来核保有国が主張



▲第1回世界大会ポスター

怒りが殺到し、皮肉にも彼らの焦りと孤立ぶりを露呈する結果となりました。

国連会議議長は、次回六月一五日からの第二会期で条約を成立させると明言し、草案を五月中にも公表する予定です。その速いテンポをリードする私たちの運動強化も急がれます。

逆流や妨害を許さないためにも「ヒバクシヤ国際署名」運動を飛躍させ、第二期会期への大阪原水協代表九名のNY派遣団に託したものです。

岩田幸雄
 (大阪原水協理事長)

国連会議では、アメリカを先頭に英、仏などが「核兵器禁止条約は非現実的」とボイコットして会場外で「抗議行動」を行い、日本政府も「会議は建設的ではない」と発言して不参加を表明したことには内外からの失望と

- ① 非核五項目
 - ② 全人類共通の緊急課題として核戦争阻止、核兵器廃絶の実現を求める
 - ③ 国是とされる非核三原則を厳守する
 - ④ 日本の核戦場化へのすべの措置を防止する
 - ⑤ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- これらに賛同し、世界大会の、これまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

新シリーズ No.2

宗教者と非核・平和

『共謀罪（テロ等準備罪）』は、戦時中の治安維持法に該当するのでは？

宗教者は反対だ。
大阪宗教者平和協議会副理事長・大阪宗教者九条ネット
運営委員
小谷静良



戦時の治安維持法は、戦後に廃止された。だが七二年経過する今日、建物や器物損害補償は成されずにいる。犠牲者の名誉も回復させず、個人の国家補償もしない国、日本政府。
その政府が同等の「テロ等準備罪（共謀罪）」を提案し、実体法として企てている。もし成文法に法律化すれば、その法は「政権」者の恣意的判断による運用、決断に期する様になる。世間社会に暴力組織や、テロ集団を取り締まる法律と説明する。世間は、三人よれば文殊の知恵で最善策が出来ると言う。しかし、政権側に立てば、三人も人が集まり世の中を批判し、政権を批判、改革世直しをする。よって政権側の私的判断で決意断行となる。犠牲者が数多出る。歴史が証明する。戦前の治安維持法を見よ。共産主義、社会主義、自由主義、超国家主義、信奉者団体を取り締まるだけでなく、世間一般社会人、宗教者も取り締まる。

（例）「大本教事件」大正十年（一九二二）神殿破壊、幹部逮捕。理由「三千世界の世を、立替世直し」を訴える。大正デモクラシーの世論に乗る。不敬罪、新聞紙法違反。二度目「治安維持法」違反、昭和十年（一九三五）ダイナマイトによる神殿爆破による破却と幹部逮捕。上記例が政権者の実体。大本教の歴史の遺産は、京都の「亀岡」と「綾部」に残存しています。市民の皆様各位はご自分の「眼」で確かめて「肌」で感じて下さい。世間の「噂」より、自分の眼で確かめる必要があります。

非核と科学

原子力災害時の「想定外」と「緊急対応」

安維持法」違反、昭和十年（一九三五）ダイナマイトによる神殿爆破による破却と幹部逮捕。上記例が政権者の実体。大本教の歴史の遺産は、京都の「亀岡」と「綾部」に残存しています。市民の皆様各位はご自分の「眼」で確かめて「肌」で感じて下さい。世間の「噂」より、自分の眼で確かめる必要があります。

過酷な耐久競技のラリーで自動車の安全技術は様々に試され、磨き上げられてきました。車両自体の問題で大きな事故もあまり聞きません。理論のみではなく、徹底的に実験され、試験を通過した技術のみが社会に受容されていきます。この自動車の安全技術の発展過程

他国ドイツのマルチン・ニーメラ牧師の告白「ナチスの共産主義弾圧も黙り込み、社会主義弾圧も黙り込み、ユダヤ人狩りも黙り込み、そして教会も弾圧されてきた」。
文獻：出口栄二「大本教事件」三一新書、島田裕二「日本の十大新宗教」幻冬舎新書、高橋和巳「邪宗門 上下」河出書房

から、また実験を中心にした長年の仕事から、私は以前より原子力の巨大システムでも単なる理論や計算を中心にした安全性の主張には大きな疑問をもつてきました。地震や津波も含めて、この災害を乗り越えられるものは『実物サイズ』での過酷試験が必ず必要と考えています。もしこれが、技術的・経済的にも、社会的にも不可能であれば事業として推進すべきものとは考えません。原子力災害で周辺住民の方々へ大変な運命を押し付けること

になりかねませんし、国土や海を荒廃させ危険地域にしてしまいうからです。日本のように古来、地震、津波が度々起きる地震列島で原子力事業を推進した政府や会社の『想定外』、『予見不可能』の主張は空しいものです。物事を進めたい人間の深い心理として都合の悪い結果は想定したくない気持ちで責任をもつ側に強く働くのかもしれない。



トモダチ作戦のロナルド・レーガン

もう一つ、福島原発事故時の印象的な事態は各国政府の迅速な対応です。アメリカは原子力災害に極めて敏感で、この時すぐに原子力空母や在日アメリカ軍を被災地の救援に向

かわせました。同時に在日アメリカ人の安全を担保するため自主避難区域を原発より80km外と設定し、厚木や横須賀から脱出・帰国させ、福島上空を無人偵察機で独自の放射能観測を続けました。フランスや他国も在日国民を集めて飛行機で緊急に帰国させました。核戦争も含めてアメリカは原子力災害に即応態勢を有し、核の先制攻撃を排除せず、また核の攻撃が察知されたら、即時の報復核攻撃を行う体制が常に維持されています。
オバマ前大統領も広島に『核のボタン』を持参したように緊急事態への対応策・手順は具体的・現実的です。日本は原爆の被災国として、また、原発災害を経験してきた国として『想定外』事後の後始末、後追い思想から脱し、想像力をもって核兵器廃絶のマニユアル・手順を事前に世界へ発信すべきと思います。（跡部紘三）

春の恒例行事

京大熊取原子炉見学に行ってきました。参加者一八名でした。お二人から感想文を寄せていただきました。

京都大学原子炉実験所見学会参加感想文 石原幸一（大阪市淀川区）



四月一日の土曜日、京都大学原子炉実験所及び原子力燃料工業、原子力規制委員会・大阪府オフサイトセンター見学会が実施され、一八名が参加。四月とは思えない肌寒い空気と冷たい小雨まじりの中で見学ツアーは始まりました。

集合場所の熊取駅から無料の送迎バスに揺られて約七分。最初の見学目的地「原子燃料工業」の工場に到着。入り口で入場者一人ひとりの顔写真付きの証明書提示や手荷物検査など、職員による物々しいセキュリティチェ

ックを経て工場のフェンスの中へ。

初めに原子力燃料製造過程を五分ほどのビデオで学習。①粉末のウラン二三五をプレスして固形にしたものをさらに焼き固めるペレット製造工程。②ペレットを直径1cm、長さ4mの被覆管に挿入し溶接密封する燃料棒製造工程。③燃料棒を一七九・二六四本束ねた燃料集合体製造工程の三工程について理解しました。

その後、七、八名の小グループに分かれて順番に工場内へ。入り口では帽子を着用し、放射線線量計を渡されます。厳重な放射線管理が行われていることを実感します。ところが、工場内は実際の製造工場ではなく、見学者の説明のために用意されたセットのような所で、原子力燃料も実物ではなく、レプリカが説明用に置いてあるだけでした。少しがっかりしましたが、それでも担当の職員の方は、

ビデオで学習した製造工程を丁寧に説明し、質問にも率直に回答してくれました。

この「原子燃料工業」という会社は、住友と古河が資本を出し合って作った会社であること。主に西日本の原発向けに燃料を製造していること、日本には他に二社燃料製造会社があること。製造技術はアメリカやヨーロッパから技術導入したものであるが、現在では国产化・自前の技術になっていること。燃料集合体の搬送は、特殊なアルミ製の容器に入れられて警察車両の警備のもと、極秘で原発へ搬送していること等々、興味深いお話を聞かせていただきました。

職員の方々の親切丁寧な対応（見学終了時にはお茶とお菓子のお土産付き）の一方で、原発は安全で効率的・経済的であるという考え方が説明の中に一貫して見て取れて、この工場見学もまた原発推進勢力による新たな

「安全神話」PRの環境であることを実感しました。

ツアーはこの後、歩いて五分ほどのところにある京都大学原子炉実験所と原子力規制委員会・大阪府オフサイトセンターを見学し、午後四時過ぎに熊取駅で解散しました。



▲オフサイトセンターでの説明をうける参加者

から総一八名の参加者の一員として熊取にある三施設の見学に行ってきました。今回見学会の日程が合致し初参加できました。

私を含め初参加者が多く、原子燃料工業の事業所見学では、ペレットや燃料棒の製造過程に興味津々、社員の方の親切丁寧な説明が印象的でした。徹底した安全管理と品質管理の下での製造と、原子力発電による電力供給の貢献を強調されましたが、社員の方も言われていました、

「トイレのないマンシ

「京都大学原子炉実験所・原子燃料工業・オフサイトセンターを見学して」

京大原子炉実験所の一般公開が四月一日（土）に行われ、非核の政府を求める大阪の会

「オン」に例えられるほど処理には天文学的な年数と莫大な費用、そして確実な技術が必要です。

次に見学した原子炉実験所はいろんな用具が所狭しと置かれ、何だか複雑な感じがしま

した。退場時に線量測定を体験することができました。一九九九年に東海村で起こった臨界事故時の対応を反省して、原子力災害時における拠点となる施設「緊急事態応急対策拠点施設（オフサイトセンター）」が原子力施設のある都道府県に設置されています。大阪府下では、熊取町と近畿大学原子力研究所がある東大阪市に設置されています。原発安全神話は過去のものです。今回の見学を通して、原発再稼働に頼らず電力供給できる体制づくりが必要だと再認識しました。

春休み中ということもあり、高校生団体が貸し切りバスで見学にきていました。原発のことをどのように感じたのか気になることができました。最後になりましたが、このような貴重な企画をしていただいた非核の会の事務局の方々に感謝申し上げます。

青野 晴美

戦跡ウォーク ―淡路から長柄橋へ、1945年6月大空襲の跡をあるく

- 日時 6月17日(土)
- 集合 午後1時、阪急淡路駅(西口)
- コース
淡路駅→西淡路の高射砲陣地跡→日之出町共同墓地の戦死者戦災者慰霊碑→崇禅寺の戦災犠牲者慰霊塔と戦没者慰霊碑→柴島浄水場壁の弾痕→法華寺の空襲のあとを残す墓石→善教寺の戦災犠牲者慰霊塔→長柄橋の観音像と弾痕が残るコンクリート片
- 解散 長柄橋観音像の傍で
帰りは、地下鉄天神橋筋六丁目駅まで歩くか(15分程度)、最寄りのバス停長柄橋南詰からバスで地下鉄天神橋筋六丁目駅か大阪駅前まで
- 歩行距離 4キロメートル程度、終了時間は3時半~4時ごろ
- オプション
次の天神橋筋八丁目バス停からバスで城北公園前まで移動して(バス頻発)、城北公園の千人つかと平和観音を訪ねる。

非

核の夏に
むけての
行

事案内

大阪平和委員会第61回定期総会

- 日時 5月20日(土) 午後1時~午後5時
- 場所 大阪社会福祉指導センター
第1部 学習会「憲法」講演会：西晃弁護士
第2部 定期総会

大阪原水協第55回定期総会

- 日時 5月27日(土) 午後1時30分
 - 場所 大阪社会福祉会館 5階501号
第1部 定期総会
第2部 記念講演「国連交渉会議に参加して」
講師：土田弥生日本原水協事務局次長
- ※終了後、6月の国連「核兵器禁止条約の交渉会議」に参加するニューヨーク大阪代表団壮行会を行います

ノーモア・
ヒバクシャ訴訟
「全面勝利をめざす
つどい」

- 日時 6月3日(土) 午後2時~
- 場所 大阪グリーン会館2階ホール
- プログラム
記念講演 高草木博日本原水協代表理事
沖縄を歌って 川口真由美さん
弁護団報告
原告・被爆者の訴え



当会が企画してきました「戦争の傷あと銘板巡り」が昨年で第一シーズンが終了し、今年度から第二シーズンにはいります。今回は「大阪戦争モノ語り」街かどの「戦跡」をたずねての著者森田敏彦氏のご協力をいただいて春と秋の二回シリーズをプロデュースしていただきました。ご参加希望者は、事務局まで申し込んでください。

軍学共同いらない! 市民と科学者のつどい

—市民と大学人の連携こそ憲法を守り軍学共同を押しとどめる力—

日時 2017年 **5月13日**(土) 午後1時30分~午後4時

場所 大阪社会福祉指導センター 5階多目的ホール
大阪府大阪府中央区中寺1丁目1-54(電話06-6762-9471)
(最寄駅)大阪地下鉄(谷町)6丁目駅4番出口 南へ徒歩5分

お話し 池内了さん(名古屋大学名誉教授) 資料代 500円

- 市民と科学者の対話・交流
- 徳井由美子さんによるアイリッシュ・ハープ演奏と語り

2015年防衛省は調査を出して大学などに研究を委託する「安全保障技術研究推進制度」を開始しました。大学などが最先端の科学技術を開発して国防に活用する目的、この制度開始2年目の昨年、大阪市大の研究が採択されました。大学が軍事研究に参加すれば、これまで民生研究で発展してきた日本の科学技術が「軍事学複合体」に組み込まれてしまい、次の社会を形作る若者を育てる高等機関も変質してしまいます。大阪でも、このつどいを「IP2」に軍学共同は許さないの世論と運動の大きなうねりをつくり出しましょう。

主催 軍学共同いらない! 市民と科学者の会・大阪 (仮称)
(事務局団体 大阪革新塾、日本科学者会議大阪支部、大阪平和委員会(連絡先 電話 06-6765-2640))

←二〇一五年NPT大阪代表団壮行会

平和・国際友好団体共同講演会

**世界はどう動いているか
…反核のうねりから見る**

日時: 5月17日(水) 18時30分~ (開場18時)
会場: エル・おおさか南館 5階ホール

お話し やすお
講師: **緒方 靖夫さん**
(日本共産党幹事会副委員長 国際委員会責任者)

参加費(資料代): 1,000円
全席自由席。先着順に入場して頂きます。

ついに国連を動かした反核のうねり…。核兵器禁止条約交渉国連会議(第一会期3月27日~31日)に、日本共産党代表団の副団長(語学社社友委員)として参加した緒方靖夫さんに、思う存分に語っていただきます。

主催: 東アジアの平和をめざす講演会実行委員会

構成団体 (安保従軍・請求書貫徹大阪実行委員会、大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会、大阪のうたごえ協議会、大阪平和委員会、原水爆禁止大阪府協議会、日本コリア協会・大阪、日本中国友好協会大阪府連合会、日本ベトナム友好協会大阪府連合会、日本ユーラシア協会大阪府支部連合会) *50百額

問い合わせ・連絡先 大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 電話: 06-6760-5360
原水爆禁止大阪府協議会 電話: 06-6765-2522
連絡: 090-3674-0880(携帯)・090-4874-9178(長谷川)